

## ■ 2008年(7月～12月)活動報告 ■

### 事務所訪問

12月25日(木) 佐賀県支部事務所



- ◆学校が冬休みに入った25日、佐賀清和中学校3年の生徒さんが「世界の子どもたちのことをもっと知りたい。」と事務所を訪れました。秋の文化祭では学校のユニセフ委員会で「水とトイレ」の問題について調べて発表しました。小学生のときにマザー・テレサの活動を知り感銘を受け、将来は医療活動で途上国の人々の力になりたいという夢を持ち、自主的に事務所を訪問しての勉強です。質問事項を用意しての積極的な学びの姿でした。

#### 学習を終えて

- ◆世界には出生登録をされていない子どもたちが半数以上もいるということに驚き、そのことがもたらす様々な問題を考えました。また、HIV/エイズが小さな子どもたちにも関係があるということ、保健と衛生の問題、子どもの兵士の問題、児童労働の問題、人身売買の問題など知らないことばかりで驚きました。勉強に来てよかったです。マザー・テレサの活動の原点は宗教だったけれど、私は医師になって医療活動で子どもたちをささえたいという希望がさらに強くなりました。

## 第30回ユニセフ ハンド・イン・ハンド

テーマ 『守りたい。子どもたちの命、アフリカの未来』

12月14日(日) 佐賀市 ゆめタウン佐賀、イオンスーパーセンター佐賀店  
12月21日(日) 佐賀市 佐賀玉屋デパート前、ジャスコ佐賀大和店、ホームワイド佐賀大和店、ベスト電器佐賀大和店  
上峰町 上峰サティ  
小城市 バニーズ三日月店  
鹿島市 ピオ、ララベル

- ◆好天に恵まれた14日とあいにくの雨模様となった21日の両日にわたって、小・中学生と引率の皆様、高校生、大学生、ボーイスカウト、カブスカウト、多くのボランティアの皆様とともに、「守りたい。子どもたちの命、アフリカの未来」をテーマに、募金活動が行われました。
- ◆「アフリカの子どもたちのためにご協力をおねがいしま～す！」「4円あると一年分のビタミンAを一人の子どもに届けることができます！」と大きな声で協力を呼びかけました。
- ◆12月14日と21日の両日にわたって行われました街頭募金活動には総勢285人の方がボランティアとして参加してくださいました。また、両日の募金活動を含め、11月と12月の2ヶ月間にわたって行われましたユニセフ募金キャンペーン『第30回ユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金』での募金総額は1,452,979円にのぼりました。ご協力ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

(次ページに続く)



佐賀玉屋



ジャスコ佐賀大和店



上峰サティ



バニーズ三日月店



ご多用のなか駆けつけてくださったボランティアのみなさま  
募金に温かいお気持ちをお寄せいただいた多くのみなさま  
快く会場をご提供くださった企業のみなさま  
本当にありがとうございました



ホームワイド佐賀大和店



ベスト電器佐賀大和店



ゆめタウン佐賀



イオンスーパーセンター佐賀店

## unicef in Tamaya 2008

### ユニセフ・パネル展&ユニセフカード展

- ♪ ユニセフ・パネル展 「アグネス・チャン大使の中国大地震視察記録」  
12月2日(火)～12月15日(月) 佐賀玉屋デパートにて
- ♪ ユニセフカード展 「一枚のカードで守る 子どものいのち」  
12月7日(日) 佐賀玉屋デパート南館アーケードにて



◆ユニセフ・パネル展「アグネス・チャン大使の中国大地震視察記録」を、12月2日から15日までの2週間、佐賀玉屋デパートのご協力で開催しました。

年末のお買い物のお客様は写真の前で足をとめ、2008年5月12日、中国四川省などを襲った大地震による大災害の様子をご覧になっていました。死者、行方不明者は8万8千人。発生時間が授業時間中に重なったため、学校の倒壊などにより、多くの子どもたちの命が失われました。命拾いをした子どもたちも、親や住む家などをなくして、この冬をどのような思いで越すことでしょうか。

◆ユニセフカード展「一枚のカードで守る 子どものいのち」では、冷え込んだ一日にもかかわらず、関心を持って下さる方の参加も多く、有意義な一日になりました。ユニセフグッズの頒布も行いました。

◆パネル展をご覧になった方から事務局に次のようなコメントが寄せられました。

「佐賀玉屋で開催されていた、アグネス・チャンが視察した中国四川省大地震のユニセフ写真展の感想について述べさせていただきます。

被害状況を写真とメッセージで見て感じた事ですが、ひどい状況でした。老朽化した建物の崩壊が多く、その中に両親が生き埋め状態で死亡しており、親を失った子ども達が沢山いて可哀想と思うと同時に、みんなのちょっとした援助によって支援が出来るのではないかと思います。

この子ども達が、ストリートチルドレンになってしまうのだろうか？ 政府による子どもたちの保護と教育の保障を希望して欲しいものです。UNICEFやJICA、その他NGO・NPOの活動が皆さんに理解され、支援してもらう事によって、子どもたちを守るための活動も広がるものだと思います。」(Y・Tさん:男性)

## ユニセフ出前授業

12月10日(水) 佐世保市立相浦小学校高島分校

- ◆全校生徒12名の佐世保市立相浦小学校高島分校のみなさんは、今年も一年間牡蠣の養殖に取り組み、その売り上げを世界の子どもに役立ててと32,910円もの募金を寄せてくださいました。
- ◆クイズやすごろくゲームを通じてのユニセフ授業で栄養について学んだ子ども達3秒に一人命を落としている世界の子どもの実情をなんとかして命を救いたいとか井戸ができるということはすごいことなんだと感心したり素直な心で感想を寄せて下さいました。
- ◆授業の後は体育館に移動お揃いのオレンジのTシャツに身を包んだ12名の子ども達学園天国の歌と演奏、そして踊り素直な気持ちそのままの歓迎でした。



## ユニセフ出前授業

12月9日(火) 佐賀市立城北中学校

### 人権集会「子どもの権利について考えよう～児童労働～」

- ◆城北中学校では人権週間にあって人権集会が行われました。各学年代表者の「人権作文」の発表があり、その後「子どもの権利について考えよう～児童労働～」という演題でお話をしました。生徒の皆さんは熱心に話を聞き、児童労働によって子どもたちの「生存する権利」や「育つ権利」が守られていないことに気付きました。そして「児童労働」に、自分はどのような係わりがあるのか等について考えました。



### 学習を終えて

- ◆今日は、私たち城北中学校の生徒のために、「人権」について本当にためになる話しをして頂きありがとうございました。私たちと同じくらいの年齢の子どもが厳しい労働を強いられたり、簡単に売られたり、兵士として戦場に連れて行かれたり…。今の日本の子どもたちでは考えられないようなことが世界では当たり前のように起こっていることを知りました。私たちは今ふつうに暮らしていますが、世の中には学校にも行けず苦しんでいる人がいる。そのことを忘れずに世界の人々がみんな平等に幸せに暮らせる世の中をつかっていかなければと強く思いました。ありがとうございました。(3年男子)

## 募金贈呈式

12月9日(火) 事務所にて

- ◆佐賀市立東与賀中学校では毎年ユニセフ募金活動に取り組んでいます。今年も生徒会総務部の皆さんが11月いっぱい各クラスに募金箱を設置して生徒の皆さんに協力を呼びかけました。
- ◆本日は、総務部の皆さん3人と担当の先生が事務所を訪問され、全校の皆様からご協力いただいた募金を贈呈されました。11月、12月はユニセフ ハンド・イン・ハンド月間ですので「アフリカの子どもたちのために役立ててください。」と手渡されました。



## さが国際交流・協力フェスタ2008 ユニセフ講座

11月24日(月) アバンセ4階(佐賀市どん3の森)

### I. ユニセフってなあに？

- ① ユニセフクイズ
- ② ユニセフってなんばしょと？

- ◆クイズを通して、ユニセフについて知っていただきました。



お父さんと一緒に考えたよ



クイズのヒントを読んで答えよう



ヤッター！全問正解！

### II. 講演会

演題 「アフガニスタンの子どもたちと基礎教育」

講師 小野康子さん(JICAジュニア専門員)



- ◆小野康さんは、2007年より2008年8月まで教育の企画調査員としてJICAアフガニスタン事務所で基礎教育セクターへの支援に関わりました。現在ジュニア専門員として、JICA本部基礎教育グループにおいて、アフガニスタンの基礎教育セクターを担当し、プロジェクトの運営管理に携わっておられます。

- ◆アフガニスタンの基礎情報のお話の後、識字教室やカブール市・マザリシャリフ市の学校の様子、アフガニスタンの教育制度、課題などについて詳しくお話しいただきました。

2002年、ユニセフのBack to school campaign は大きな成果があり、たくさんのお子どもたちが学校に通うようになったということでした。

- ◆小野さんは「子どもたちが安全に学校に行けるようにすることが第一。」と話を結ばれました。それは、とりもなおさず、私たちの願いでもあります。アフガニスタンの子どもたちが一人でも多く安心して学校に行けるよう、これからも支援を続けたいと思います。



写真を見て:「この少年は何をしているのでしょうか？お隣の人と話し合ってください。」

## ユニセフ出前授業

11月20日(木) 小城市立三日月小学校

- ◆天山に雪が積もる寒い日でしたが、全校の皆さんは体育館に集まり「じんけん集会:テーマ～いのち～」の学習をしました。
- ◆生きるためにはなぜ水が必要かをクイズで考えたり、アジアやアフリカの子どもたちがどのようにして水を求めているのかを視聴したりして、「いのちと水」について考えました。また、ネパールで使われている水がめを使っのの水運び体験もしました。



### 学習を終えて

- ◆思っていたよりも水運びは重くてきつかったです。これを1日に何回も、毎日しなくてはならないのは大変だろうなと思いました。
- ◆飲み水にできる淡水は少ししかないことが分かったので、ぼくはこれから水を大切にしようと思いました。

## ユニセフパネル展&グッズ頒布

11月15日(土)16日(日) 佐賀大学祭(佐賀大学本庄キャンパス)にて

- ◆第11回佐賀大学学園祭—繋・つながり—において、「学ばんばヒューマンライツ」の学生さんとユニセフサポーターの学生さんは「～世界の子どもたちは、今～ ユニセフパネル展&グッズ頒布」に取り組みました。
- ◆文化教育学部の学生さんたちは、子どもの権利に関して、世界の子どもたちのおかれている現状(乳幼児期のケア・ストリートチルドレン・子ども兵士)について研究したことを発表しました。学生さんたちのすばらしい研究発表に会場の市民の皆様も熱心に聞き入っておられました。



## ユニセフ出前授業

11月10日(月) 柳川市立矢ヶ部小学校

- ◆矢ヶ部小学校では毎年「ユニセフ人権学習」に取り組んでいます。今年度は、安全な水を手に入れることができない子どもたちの様子を知り、子どもの人権が守られていないことについて考えました。
- ◆学習の終わりに17,700円のユニセフ募金の贈呈がありました。これは、11月2日の矢ヶ部校区「ふれあい広場2008」で、6年生の皆さんが自分たちで育てたもち米でお餅をついたり、もち米を地域の方に買っていただいたりして募金活動に取り組み、地域の皆さまからご協力いただいたものです。

### 学習を終えて

- ◆海水はたくさんあるけど、のみ水にできる水はほんのちょっぴりしかないことが分かった。世界にはきれいな水を飲めない子どもたちがたくさんいて、どろ水のような水を飲んですぐに病気になり死んでいるのでびっくりした。だから、これからぼくが始めることは、水のむだ使いをしないようにしようということです。
- ◆ネパールの子どもたちが使っている水がめで水を運んだ。ちょっとしか歩かなかったけどとっても重くて手に形がつくくらいだった。あんなに重いものを持って家族のために水を運んでいるネパールの子どもたちはすごいなあと思った。
- ◆色々なものを食べたり飲んだりできるのは当たり前だと思っていたけど、そうではないということが分かった。今度から感謝して食べて、食べ残しをしないようにしようと思った。
- ◆水くみのために学校に行く時間がない子どもたちがいるなんてびっくりした。これからもユニセフをがんばる。



「ふれあい広場で協力してもらった募金です。世界の子どもたちのために役立ててください。」



おもた〜い



海水と淡水の割合は？◆

## ユニセフグッズ頒布&ミニバザー

11月9日(日) かたりべの里本庄祭り(佐賀市立本庄小学校)

- ◆あいにくの冷たい強風のためテント設営ができなくなり、運動場での開催予定が体育館での開催となりました。各地区子ども会のみこし行列、城西中学校の吹奏楽演奏、本庄小学校のマーチング演奏の後、地元各団体のバザーが始まりました。
- ◆ユニセフのキッズバザーコーナーには、10円玉を握りしめた元気な子ども達がたくさん集まってくれました。飛び入りでバザーのお手伝いをしてくださったユニセフ会員さんがいらっやって、心強い連帯感を感じました。ミニバザーへのご協力は6,744円となり、全額ユニセフ募金とさせていただきます。

## ユニセフグッズ頒布&パネル展

11月8日(土) 佐賀市メートプラザにて



- ◆成瀬中学校第12回学芸発表会会場において昼の休憩時間を利用したユニセフ支援バザー・ユニセフグッズの頒布・パネル展が開かれました。バザー品は、先生方、保護者の方、関係者より提供されたたくさんの品々など心のこもったものばかりでした。
- ◆各学年からのユニセフ係りの生徒さんが売り子担当、会計担当と仕事を分担して多くのお客様に協力の呼びかけをしました。ユニセフグッズの売上げは、11,130円で約50%の6,000円近くが現地での活動資金として役立てられます。

## 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク ユニセフ出前授業

10月29日(水) 千代田西部小学校にて

テーマ：水から世界を考えよう

- ◆神崎市子どもの居場所づくり実行委員会では、国の委託を受けて神崎市内の7小学校や公民館で、放課後や週末にいろいろな体験活動、世代間交流ができる居場所づくりを進めています。
- ◆千代田西部小学校ドリームパークの子どもたち44人(1年~5年)は、「水から世界を考えよう」というテーマで学習しました。「みず・ミズ・水」クイズで、水に限られた資源であることを知ったり、すごろくゲーム「いのちを守る水」で井戸が出来るまでを追体験したりしました。また、世界の子どもたちがどのようにして水を手にしているかを画像で見た後、ネパールの水がめを使っでの水運び体験をしました。

### 学習を終えて

- ◆日本には水がいっぱいあるけど、世界には水がなくて困っている人たちがたくさんいることがわかった。
- ◆海の水はたくさんあるけど、地下水や川の水はちょっとしかないことがわかった。ぼくは、水を少なく使うようにする。
- ◆井戸ができたならアフリカの子どもたちがとても喜んでいて、井戸ができることはとてもうれしいことだと思った。



井戸の完成です！  
2つすすむ。ヤッター！



重い！重い！

## ユニセフ写真展

### 佐賀巡回展「HIV/エイズの危機と子どもたち」



- ◆ユニセフ写真展「HIV/エイズの危機と子どもたち」を開催しました。より多くの皆さまに見ていただけるように、今回は下記の3会場を巡回する写真展としました。

- ① 佐賀大学医学部キャンパスむつごろう祭
- ② iスクエアさが市民活動プラザ
- ③ アバンセ佐賀県立女性センター・生涯学習センター

- ◆アンケートによると「ユニセフの写真展を初めて見た。」と答えてくださった方が多くて、巡回展という新たな試みも意義がありました。

10月10日～12日  
佐賀大学医学部会場



学術担当の皆様がユニセフグッズの  
頒布に取り組んで下さいました。

10月14日～10月17日  
iスクエア会場



10月18日～10月22日  
アバンセ会場



## アンケートより

- ◆子どもがエイズになることを知らなかったし、エイズが原因で親を失って孤児になることも知りませんでした。私の知らない世界を気付かせてもらって良かったです。
- ◆アフリカ等でのエイズの現状が悪いことは知っていましたが、これほどとは思いませんでした。知ることの大切さが身にしみ、これをどのように子どもたちに伝えていこうかと考えています。性感染症の中でもHIVウイルスのことは特に取り上げて指導していかななくてはならないと思いました。正しい知識を子どもたちに伝えなければならないですね。
- ◆募金箱を見るたびに僅かだが入れていた。また、振込み用紙での募金もしてきた。しかし、写真を見て、性を大切にしたいと感じる。そして、人として生きることができるのはみな同じだと思った。

## 募金贈呈式

10月15日(水) 事務所にて



- ◆佐賀清和中学校では9月9日～9月11日に清和祭が行われ、そのなか9月10日にはユニセフ実行委員会の皆様を中心となってユニセフチャリティーバザーが開催されました。
- ◆本日はユニセフ実行委員会を代表して委員長、副委員長のお二人が先生と一緒に、ユニセフチャリティーバザーで皆様からご協力いただいた募金56,455円を届けに来て下さいました。

### 感想

- ◆3年間取り組み、どの年もそれぞれによかったのですが、特に今年度は募金額も一番多かったなど心に残るものとなりました。これまで募金等にご協力をいただいた皆様、ありがとうございました。(実行委員長)
- ◆今までもボランティアに興味を持っていたので今回の活動を通じてもっといろいろなことを知りたいという思いが強くなりました。  
将来、人の為になるような職業につきたいという夢をもっているため、今まで以上夢に近づけるよう努力したいと思います。(実行副委員長)



## 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク ユニセフ出前授業

10月8日(水) 仁比山小学校にて  
テーマ：水から世界を考えよう

- ◆神崎市子どもの居場所づくり実行委員会では、国の委託を受けて神崎市内の7小学校や公民館で、放課後や週末にいろいろな体験活動、世代間交流ができる居場所づくりを進めています。
- ◆仁比山小学校ドリームパークの子どもたちは(1年～5年)は、「水から世界を考えよう」というテーマで学習しました。「みず・水クイズ」で水が限られた資源であることを知ったり、すごろくゲーム「いのちを守る水」で井戸が出来るまでを追体験したりしました。また、世界の子どもたちがどのようにして水を手に入れているかを画像で見た後、ネパールの水がめを使っての水運び体験をしました。

### 学習を終えて

- ◆すごろくをして、井戸ができればみんながとても喜ぶということが分かった。ぼくも井戸にゴールできたからよかった。
- ◆水運びは重くてきつかった。1日に何回も水を運ぶために学校に行けない子どもたちがいる。私は水運びをしなくてもいいから、いっぱい勉強しようと思った。
- ◆ぼくは水を使いすぎているから、今度から少し使うようにしようと思う。



「よごれた水を飲んで、けりになりました」ひとつもどる！ ザンネン！



おもた

## イオン「幸せの黄色いレシート」キャンペーン

9月11(金) ジャスコ佐賀大和店



- ◆イオンは、環境・社会貢献活動の一環として、幸せの黄色いレシートキャンペーンを行っています。
- ◆毎月11日のイオン・デーには、地域のボランティア団体などの名前と活動内容を書いた投函BOXがお店に置かれています。この日に、買い物をし、レジ精算時に受け取った黄色いレシートを応援したい団体の投函BOXへ入れると、購入金額合計の1%が地域ボランティア団体などに希望する品物で寄贈されます。
- ◆佐賀県支部もレシートの投函BOXを用意していただいております、イオン・デーのこの日に、キャンペーンの輪を広げるためのイベントに参加させていただきました。
- ◆「お買い上げの1%がユニセフの支援になります」「レシートで、栄養不良の子どもたちに支援ができるんですよ」と説明させていただきましたと、お買い物に来られた小さなお子様やお母様が熱心に聴いてくださり、沢山の方が協力してくださいました。
- ◆皆様ありがとうございました。

## 募金贈呈式

8月28日(木) 佐賀善意銀行にて(佐賀市佐賀新聞社内)

- ◆5月にミャンマーを襲ったサイクロン被災者への義援金が多く皆さまから佐賀善意銀行に預託されました。「県民の皆さまからの多くの善意を、ミャンマーサイクロン被災者の復興支援に役立てください。」と、984,242円もの義援金を佐賀善意銀行事業部長中地重俊様から日本ユニセフ協会佐賀県支部富崎鈴代事務局長に手渡されました。皆さまのご支援に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



立ち見が出るほどの大盛況

## 第5回ユニセフのつどい

Peace & Unite unicef ~saga~  
アフリカンナイト トーク エンド ライブ

8月10日(日) 浪漫座(佐賀市)

主催：Peace & Unite 実行委員会



受付ではキッズボランティアが大活躍

「第5回ユニセフのつどい」を、佐賀市歴史民俗館という、鹿鳴館を思わせるような百年の歴史をもつ情緒ある浪漫座(旧古賀銀行)で開催しました。ユニセフに・アフリカの子どもたちに・あるいはアフリカの太鼓に...、それぞれの思いで関心を持った大勢のお客様の参加がありました。

### I. 講演：「アフリカの子どもたちの笑顔に会う」 講師：早川千晶さん

早川さんは、ナイロビ最大級のスラム・キベラで、孤児・ストリートチルドレン・貧困児童のための寺子屋「マゴソスクール」を運営し、スラム住民の生活向上プロジェクト・給食活動・リサイクル運動などに携わり、2005年にミリティーニ村にジュンバ・ラ・ワト(子どもの家)を設立しました。



◆たくさんの映像を使った早川さんのお話は、子どもたちとの出会いや、子どもたちの自立のための様々な取り組みなど、子どもとともにあるからこそ伝わる熱いものがありました。  
「子どもたちに『夢はなに？』と聞くと『お医者さんになりたい』とか、『先生になりたい』とか言いますが、『学校に行きたい』が夢である子どもたちがたくさんいるのです。」とのお話に、「すべての子どもに教育を」というユニセフの仕事の重要性を改めて感じました。

### II. アフリカンドラム・ライブ：「響け！アフリカの鼓動」 演奏：スワレ・マテラ・マサイさん 大西匡哉さん

スワレ・マテラ・マサイさん  
ケニアのドウルマ民族の伝統音楽「セングーニャ」の巨匠。ミリティーニ村のジュンバ・ラ・ワト(子どもの家)の会長でもあります。

大西匡哉さん  
ケニア在住のミュージシャン。ドウルマ民族の村やスラムの音楽家とともにJIWEを設立し、音楽活動を通してコミュニティサポートに取り組んでいます。

◆マテラさんは「世界中で一番大切なのはバー(父)・マー(母)・トト(子ども)、つまり、父親と母親と子どもが一番大切なことだ、そして平和が何よりも大切だ。」と、心からのメッセージを歌われました。  
マテラさんの「バー・マー・トト」の呼びかけに会場は一斉に呼応、家族の絆の大切さを歌う歌声は会場を感動のるつぼと化し、全員が立ち上がって手拍子、足拍子、そして飛び入りのアフリカンドダンスとなりました。



(次ページへ続く)

## 参加者の感想から

- ◆ぼくは、ストリートにいる3人組の16歳の子の話が一番印象に残った。お父さんたちといた時、みんな殺されそうになり、「この子だけは助けてくれ」とお父さんが言った。お父さんは自分の目の前で殺され、自分は必死で逃げてストリートで生きている。まわりの裕福な人からは不良みたいな目で見られている。でも、ストリートにいる子どもにはこんな事情があるのに悲しいことだと思った。(小学5年生)
- ◆早川さんたちの活動から援助を受けて高校に行けた人がいる。ということはユニセフの活動、講演やライブが直接成果に結びついていると思った。アフリカの太鼓は初めて聞いたのですが、思っていたよりずっと迫力を感じた。(高校1年生)
- ◆私はマテラ長老の『平和と優しさのある人は人々に愛されるものです』という言葉が印象に残りました。自分も偽ものではない"真のやさしさと平和の心"を持ち続けたいものだと思います。
- ◆マテラさんの「バー・マー・ト」のお話を聞きながら、物にあふれた豊かな日本で、なぜにこうも毎日のように家族の中での悲惨な事件があるのだろうかと思いました。あるがままの家族を愛することができなくなっているのでしょうか？それは何故なのでしょう？  
また、早川さんのお話のなかで、家族の愛に触れることもできない子どもたちがいることを知り、「私はどうすればいいんだろう。私に何ができるのだろう。」という思いが強くなりました。これから考えていきたいと思います。

## ユニセフパネル展&ユニセフグッズ頒布

「2008ピースアクションinナガサキ」

テーマ「被爆者への想いを寄せる～長崎の再発見～」

8月8日(水) 長崎市民会館展示ホールにて



くじ引きでビタミンAを送ろう



ぼくもユニセフサイコロしたよ

- ◆参加2回目となる今年は、「おたのしみくじ」「パネルの展示」「ユニセフすごろく」をしました。
- ◆「ユニセフすごろく」では、身長や体重を測定したり、レプリカの地雷に驚いたり、水がめを運んでみたりと、ユニセフの活動について遊びながら学びました。また、「おたのしみくじ」を楽しみながら、「20円で5人の子どもたちにビタミンAを送ることができる」ことを学びました。
- ◆長崎の学生ボランティアさんをはじめ総勢11名のボランティアさんが大活躍、大いに盛り上がった一日でした。お手伝いありがとうございました。

※「2008ピースアクションinナガサキ」は、日本生協連と長崎県生協連が、63回目の原爆の日を迎えるにあたり、あらためて平和を考えるために開催したものです。



水運び重いよ

## ユニセフ出前授業

8月8日(金) 佐賀市立循誘小学校1年～6年

テーマ「平和について考えよう」

- ◆循誘小学校では平和集会が開かれ、全校の皆さんが「世界が一つになるまで」の歌を歌ったり、秋に修学旅行で長崎に行く6年生へ「折鶴」を手渡ししたりして平和を祈りました。
- ◆日本ユニセフ協会佐賀県支部から子どもたちに「平和ってなあに?」と問いかけ、平和の大切さについて一緒に考えました。さらに、子どもたちの命を守るユニセフの活動について学習しました。

学習を終えて

- ◆ぼくは、これまで「ユニセフ」というと正直「募金をするところ」というイメージしか持っていなくて、実際にどのような活動をしているのかほとんど知りませんでした。今日、話を聞いて初めて知ることがたくさんあり、勉強になりました。毎日ご飯をお腹いっぱい食べることができること、こんな暑い日でも気持ちよく生活できることは、本当に幸せなことなんだと改めて思いました。このようなことが平和なんだと考えることができました。いま、こうして生きていること、生かされていることに感謝して、これから先の生活の中で自分ができることを精一杯がんばっていきたいと思います。



## ユニセフ出前授業

8月6日(水) みやま市立開小学校4年生～6年生  
テーマ「心に平和の灯火を」

- ◆8月6日の広島原爆記念日に、開(ひらき)小学校では平和学習が行われました。4年生から6年生までの皆さんは、現在戦争に巻き込まれている子どもたちの様子や、子どもたちのために活動するユニセフの仕事について学習しました。  
学習を終えて
- ◆世界では水や食べ物やエネルギーの消費がかたよっていることが分かりました。ぼくは、食べ物をそまつにしたり水をむだ使いしたりしているので、今日からこれをなおして大切にしようと思いました。
- ◆友だちと意見が合わないときは、すぐにけんかにならないように、話し合うことが大切だと分かりました。自分のことだけでなく、相手の意見を聞いて相手の気持ちを考えることが大切だと分かったので、これから人の気持ちを考えられるようになりたいです。



## 事務所訪問

7月28日(月) 佐賀県支部事務所

- ◆唐津東高校1年生の皆さんは、進路指導の一環として行われる職場訪問で佐賀県支部の事務所に来られました。日本ユニセフ協会の地域組織を訪問先として選んだ理由は「将来、外国の子どもたちを助ける仕事をしたいので、ユニセフについて調べたいと思った。」ということでした。
- ◆遠方からのため研修の時間が限られていたので時間が足りずに「また、8月になってから来ます。」と意欲にあふれていました。



### 学習を終えて

- ◆ユニセフって世界のいろんなところで子どもたちのためにいろんな仕事をきめ細かくやっているということが分かった。もっと色々知りたいので、また来ます。
- ◆世界には出生登録をされていない子どもたちが半数以上もいるということに驚いた。どんな問題があるか調べたい。
- ◆ユニセフの募金がどのようにして集められ、どのようにして子どもたちのもとへ届けられるのか分かってよかった。

## ユニセフパネル展&ユニセフグッズ頒布

7月25日(金) アバンセ(佐賀市)



- ◆佐賀県の6生協から約170人が参加し、『ピースアクション2008』が開催されました。
- ◆午前中には、核廃絶を求めて平和の行進、午後からはアバンセに集合し東京大空襲を描いたアニメ『ガラスのうさぎ』の上映も行われました。
- ◆アバンセ(ホワイエ)では、ユニセフパネル展・グッズ頒布・ミニバザーを開催しました。
- ◆今年は、関心を持って募金をしてくださるたくさん的小朋友さんたちが目立ちました。
- ◆グッズによるご協力は8960円、募金、ミニバザーへのご協力は4133円で全額募金にさせていただきました。ありがとうございました。



## 募金&ユニセフパネル展&グッズ頒布

7月6日(日)第3回 小城市ふるさとまつり(芦刈庁舎周辺にて)

- ◆南に有明海を抱くムツゴロウ王国芦刈町で第3回小城市ふるさとまつりが開催されました。「小城市ふるさとまつり」では例年、地元中学生の協力によるユニセフ募金活動が行われます。
- ◆今年は芦刈中学校3年生の皆さんが「ミャンマーサイクロン緊急支援募金」に取り組んでくださいました。梅雨明けの真夏日で汗びっしょりになりながらも、中学生の皆さんは会場を回って大勢のお客様に募金協力を呼びかけました。1時間の活動予定でしたが「楽しい。もっとしたい。」という希望で延長、約2時間の活動になり、33,417円もの募金になりました。

### 中学生の声

- ◆はじめは声を出すのが恥ずかしくて大きな声が出なかったけど、みんなが募金に協力してくれるので嬉しくなってだんだん大きな声が出るようになった。募金活動は楽しかった。
- ◆「お金を入れてもらえるかな?」と思って不安だったけど、思っていたより多くの方が協力してくれて、芦刈の人たちの優しさが分かって嬉しかった。



## 募金贈呈式

7月1日(火) 事務所にて

- ◆佐賀市立東与賀中学校では、日本ユニセフ協会からの学校募金の呼びかけに応じてユニセフ募金に取り組みました。
- ◆各クラスの奉仕部のみなさんが中心となって活動をした結果3,233円の募金が集まり、3年の生徒会奉仕部長・副部長と担当の先生が事務所までお届けくださいました。
- ◆この金額で、例えば800人の子どもたちに1年分のビタミンAカプセルをおくることができることを知り、「秋のシチメンソウ祭りでも頑張ります。」と話されました。

